

第24回ISO/TC34(食品専門委員会)総会報告

平成30年10月18日～19日、ワシントンD.C.(アメリカ)において、第24回ISO/TC34総会が開催され、40以上の国及び機関から80名以上の出席があり、ISO/TC34国内審議団体であるFAMICからは3名が出席しました。

同総会では、ISO/TC34及びその傘下の分科委員会(SC)並びにISO/TC34直下に設置されている作業グループ(WG)の活動状況報告、新たな作業項目等が報告されていますので、その主なものを以下に記載します。



<写真1. 第24回ISO/TC34総会の様子>

1. ISO/TC34及びその傘下の分科委員会(SC)

(1) ISO/TC34事務局

業務範囲、メンバー構成及び関係組織、業務上の重要点、持続可能な開発目標(SDGs)のうちISO/TC34が寄与すべき項目、発行済及び検討中の国際規格、新たな作業項目等について報告がありました。

(2) ISO/TC34傘下のSC

各SC毎に、業務範囲、メンバー構成及び関係組織、所管する国際規格及び国際規格案の検討状況等について報告があり、検討結果を受け必要に応じ今後の方向性等を掲示した委員会決議が発せられました。

2. ISO/TC34直下に設置された作業グループ(WG)

各WG毎に、業務範囲、メンバー構成及び関係組織、所管する国際規格及び国際規格案の検討状況等について報告があり、検討結果を受け必要に応じ今後の方向性等を掲示した委員会決議が発せられました。

また、WG17(水分活性)及びWG18(天然の食品原材料)では、担当する国際規格が発行されたことを受け解散することになりました。

この他、新たに「菜食主義者/ヴィーガンに適した食品」に係る国際規格を検討することになり、これを担当するWG新設についても言及されました。

3. 新たな作業項目

新たな国際規格として検討するものとして3カ国から4件提案され、それぞれに今後の方向性等を掲示した委員会決議が発せられました。

4. その他

(1) ISOとAOACの協力協定

ISOとAOACとの間で協力協定が締結されたことを受け、AOACから提案された新規プロジェクトはISOにおいても新業務項目提案がなされるよう委員会決議が発せられました。

(2) ISO22000とCodex委員会

ISO22000:2018と現在検討中の「Codex規格－食品衛生の一般原則」及びその付属書との調和を図る努力を支援するよう委員会決議が発せられました。

(3) ビジネスプランの更新

ISO/TC34におけるビジネスプランの見直し作業を2019年に行うこととなりました

(4) 次回総会

2020年実施で同意され、モーリシャスからの誘致につき今後確認することになった。



<写真2. 第24回ISO/TC34総会の参加者集合写真>

5. 最後に

FAMICはISO/TC34国内審議団体として、ISO国際規格の検討に当たり、幅広く国内意見を収集・取りまとめ、ISO/TC34事務局に提出しています。

規格の検討自体は、電子投票によって各段階でのコンセンサスを得た上で進展していきますが、投票結果だけでは結論が出ない場合もあり、意見を直接述べることのできる総会は、大変重要なものであると考えています。

FAMICは、今後も我が国の意向を正確に伝えるため、できる限り継続的に総会に出席してまいります。